

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年2月27日時点

	開催日時	開催形式(場所)	名称
1	2月28日(土) 13:30~17:00	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「今こそジェンダー主流化を」
2	3月1日(日) 13:00~16:00	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法」
3	3月4日(水) 13:00~16:20	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「くらしを豊かにする化学の力—材料と分析の融合が拓く未来—」
4	3月6日(金) 12:00~13:30	オンライン開催	公開シンポジウム「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第4回】モデルからフィールドへ ~基礎研究と現場をつなぐ育種学~」
5	3月6日(金) 13:00~16:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「第11回理論応用力学シンポジウム」
6	3月7日(土) 14:30~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「不登校現象と今後の学校づくり」
7	3月8日(日) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「海洋生物と気候変動: 解決と適応」
8	3月8日(日) 13:00~16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「研究倫理・調査倫理の現在」
9	3月8日(日) 13:00~17:00	全国教育文化会館エデュカス東京	公開シンポジウム「子どもの権利から見たあるべき教員養成カリキュラム改正とは」
10	3月9日(月) 13:00~17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「東日本大震災の「記憶」を振り返る」
11	3月9日(月) 14:00~16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「政治の歴史をどう語るか—陰謀論の時代の中で」

12	3月10日(火) 13:00~17:30	ハイブリッド (京都大学学術情報 メディアセンター)	公開シンポジウム「教育データのさらなる利活用の促進について考える」
13	3月11日(水) 15:15~17:45	同志社大学今出川 キャンパス	公開シンポジウム「響き合ういのち 一種をこえて共に生きる生物たちの新しい世界」
14	3月14日(土) 14:30~18:00	オンライン開催	公開シンポジウム「医科学知は誰のものか?—医科学による管理とく生の自己決定>をめぐる対話—」
15	3月16日(月) 13:00~16:10	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「国立心理科学研究所構想の推進」
16	3月17日(火) 13:30~18:00	ハイブリッド (東京科学大学大岡 山キャンパス)	公開シンポジウム「半導体テクノロジーはウェルビーイングを向上させられるのか?」
17	3月19日(木) 14:00~17:00	ハイブリッド (大阪成蹊大学駅前 キャンパスこみち ホール)	公開シンポジウム「教育改革と可視化—生成AIによる教育改革」
18	3月21日(土) 13:30~17:30	ハイブリッド (陸前高田市コミュ ニティーホール)	公開シンポジウム「産官学で推進する地域創生：ブルーカーボンがもたらす可能性」
19	3月21日(土) 15:30~17:30	栃木県総合文化センター	公開シンポジウム「環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて：2. 曝露測定—何をどのように測定するか」
20	3月22日(日) 13:30~16:30	ハイブリッド (日本学術会議講 堂)	公開シンポジウム「女性の政治参画を進めるために：議会と政党は何をすべきか」
21	3月28日(土) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「福祉の価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創～多様性と地域共生への展望～」
22	3月28日(土) 14:30~17:00	ハイブリッド (高崎健康福祉大 学)	公開シンポジウム「気候変動を食い止める農業生産技術—今、我々に何ができるか—」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



日本のジェンダー平等は世界最低レベル
男女共同参画は計画されても
社会制度・慣行のジェンダー・バイアスが実現を妨げる
いかに打開するか

日本学術会議公開シンポジウム

「今こそジェンダー主流化を」

総合司会；皆川満寿美（中央学院大学准教授）

13:30 開会挨拶

白波瀬佐和子（東京大学大学院特任教授）

報告1 「ジェンダー主流化—国際動向と日本への示唆」

大崎麻子（特定非営利活動法人Gender Action Platform理事）

報告2 「『扶養の範囲で働く』ことが招くジェンダーバイアス」

近藤絢子（東京大学教授）

報告3 「ジェンダー統計の挑戦と課題—採用選考に関する事例を中心に」

村尾祐美子（東洋大学准教授）

報告4 「埼玉県におけるジェンダー主流化の取り組みについて」

大野元裕（埼玉県知事）

休憩（15：35～15：45）

15：45 コメント、フロアを含めた討論

コメント、司会：大沢真理（東京大学名誉教授）

16：55 閉会挨拶

柘植あづみ（明治学院大学教授）

17：00 閉会

日時；2026年2月28日（土） 13：30～17：00

会場；日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口

参加費無料・要事前申込

定員；320人（定員に達し次第締め切ります）



申し込みは左のQRコードあるいは下記より

<https://forms.gle/UABotoAcFks7jviX9>

問合わせ先；皆川満寿美

minagawa(a)mc.cgu.ac.jp

※(a)を@に変えてお送りください。

主催；日本学術会議 社会学委員会 ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会

公開シンポジウム

現代の新生児医療における 臨床倫理の考え方と 医学的意思決定方法

2026 3.10 13:00(予定)
(令和8年) 16:00(予定)



場 所 日本学術会議講堂

(東京都港区六本木7-22-34)

地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車 青山霊園方面(5番)出口徒歩1分

プログラム

第1部 | 見解「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定の方法」について

第2部 | 見解に対する意見

第3部 | 総合討論

対象 どなたでも参加いただけます。

参加費 無料

申込方法

会場参加及び録画配信による視聴をご希望の方は、事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/A2RZD2JYHAKPmHc1A>



申込締切

2026(令和8)年2月27日(金)正午(定員に達し次第終了)

問い合わせ先

新生児生命倫理研究会事務局

✉ neonatal.bioethics@gmail.com

主催

日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会
新生児生命倫理研究会

本シンポジウムの趣旨

近年、新生児の生命維持治療の停止をめぐる議論が再び注目を集めており、新生児医療の現場では、生命倫理及び臨床倫理に関する問題意識が高まっている。日本学術会議では、臨床医学委員会と健康・生活科学委員会二つの委員会合同による出生・発達分科会において、このテーマを取り上げることになった。

出生・発達分科会では、歴史的背景から現状まで総合的に検討したうえで、新生児医療に求められている対応について、日本学術会議の見解として公表される予定である。本シンポジウムでは、この見解について紹介するとともに、幅広く意見を求めることとしたい。

第1部

見解「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定の方法」について

司会

藤井 知行（日本学術会議第二部会員/国際医療福祉大学大学院・医学部教授）

水口 雅（日本学術会議連携会員/心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園園長）

1 見解『現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法』
高橋 尚人（日本学術会議第二部会員/東京大学医学部附属病院教授）

2 障害学の観点から
熊谷 晋一郎（日本学術会議第二部会員/東京大学先端科学技術研究センター教授）

3 生命倫理学の観点から
島藺 進（日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授）

4 法学の観点から
米村 滋人（日本学術会議連携会員/東京大学大学院法学政治学研究科教授）

5 臨床倫理の観点から
笹月 桃子（日本学術会議連携会員（特任）/早稲田大学人間科学学術院教授）

第2部

見解に対する意見

司会

武藤 香織（日本学術会議連携会員/東京大学医科学研究所教授）

古庄 知己（日本学術会議連携会員/信州大学医学部教授）

1 新生児医療に携わる立場から
加部 一彦（埼玉医科大学特任教授）

2 家族の立場から
櫻井 浩子（東京薬科大学薬学部教授）

第3部

総合討論

座長

高橋 尚人（日本学術会議第二部会員/東京大学医学部附属病院教授）

笹月 桃子（日本学術会議連携会員（特任）/早稲田大学人間科学学術院教授）



—材料と分析の融合が拓く未来—

くらしを
豊かにする
化学の力



現代社会は、少子高齢化や気候変動といった複雑かつ深刻な課題に直面しています。これらの課題の解決には、科学技術の革新とそれを支える基盤研究の推進が不可欠です。特に、「材料化学」と「分析化学」は、社会基盤を支える科学として極めて重要な役割を果たしており、それらの相互連携によって新たな化学の地平が拓かれることが期待されます。

化学委員会では、第26期より「材料化学分科会」と「分析化学分科会」を統合し、「材料化学・分析化学分科会」として活動を開始しました。本フォーラムでは、この新体制のもと、「マテリアル開拓を支える分析」および「分析技術を支えるマテリアル」といった学術的な視点から、両分野の融合によるシナジーと、それが未来の科学・社会・暮らしにもたらす可能性について多角的に議論を行います。

特に総合討論では、産業界からの実践的な視点も取り入れ、学術界との対話を通じて、今後の研究開発の方向性や、社会実装への展望を探ります。分野融合による新しい化学の姿を描き出し、それが私たちの生活をどのように豊かにしていくかを共有することで、科学と社会とのより深い連携を目指します。

会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

ハイブリッド開催 参加費無料

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0359.html>

申込締切 令和8年2月27日(金) 事前参加登録をお願いします。



令和8年

3/4 水

13:00~16:20

主催

日本学術会議

後援

日本化学会

日本分析機器工業会

日本分析化学会

電気化学会

日本質量分析学会

ナノ学会

日本MRS

問合せ

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 Tel 03-3403-6295



くらしを豊かにする化学の力

—材料と分析の融合が拓く未来—

コーディネーター

栄長 泰明 (日本学術会議連携会員/慶應義塾大学理工学部教授)

スケジュール

13:00 ~ 13:05	趣旨説明	
	栄長 泰明	(日本学術会議連携会員/慶應義塾大学理工学部教授)
13:05 ~ 13:35	基調講演:「新材料が拓く未来社会~材料化学と分析化学の融合から~」	
	谷口 功	(熊本県産業政策顧問、公益財団法人くまもと産業支援財団名誉顧問、国立大学法人熊本大学元学長・顧問・名誉教授、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長)
13:35 ~ 14:50	アカデミアからの講演:「マテリアルを支える分析・分析を支えるマテリアル」 融合領域における新たな科学のかたちおよび相互への期待	
	座長	
	菅原 洋子	(日本学術会議連携会員/北里大学名誉教授)
13:35 ~ 14:00	「超分子材料の化学センシングへの展開」	
	南 豪	(東京大学生産技術研究所物質・環境系部門准教授/東京大学卓越研究員)
14:00 ~ 14:25	「材料と分析、そしてデジタル技術の融合による化学研究の新しい進め方」	
	一杉 太郎	(日本学術会議連携会員/東京大学大学院理学系研究科教授/ 東京科学大学物質理工学院特任教授)
14:25 ~ 14:50	「新規モダリティ創薬を支える分析化学 —健やかな未来を築く化学の力—」	
	川崎 ナナ	(日本学術会議連携会員/横浜市立大学大学院生命医科学研究科教授)
14:50 ~ 15:10	休憩	
15:10 ~ 16:10	総合討論	
	ファシリテーター	
	谷口 功	(熊本県産業政策顧問、公益財団法人くまもと産業支援財団名誉顧問、国立大学法人熊本大学元学長・顧問・名誉教授、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長)
	パネリスト	
	杉沢 寿志	(一般社団法人日本分析機器工業会技術委員長/日本電子株式会社経営戦略室参与)
	日下 康成	(積水化学工業株式会社 R&D センター先進技術研究所所長/ 京都工芸繊維大学新素材イノベーションラボ特任教授)
	関根 千津	(日本学術会議連携会員/元住化技術情報センター代表取締役社長)
	齋藤 公児	(日本学術会議連携会員/日鉄テクノロジー株式会社テクニカルアドバイザー)
	玉田 薫	(日本学術会議第三部会員/九州大学主幹教授・副学長)
	16:10 ~ 16:20	まとめ、閉会挨拶
玉田 薫		(日本学術会議第三部会員/九州大学主幹教授・副学長)
16:20	閉会	



生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ 【第4回】モデルからフィールドへ～基礎研究と現場をつなぐ育種学～

開催方法:オンライン配信

主催:日本学術会議 農学分科会・育種学分科会

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中で、「育種」は安定した食料生産と社会課題の解決、そして地球環境の保全に直結する重要な領域として注目されています。本ウェビナーシリーズでは、作物・畜産・水産など多様な育種分野の第一線の専門家をお招きし、現場の最前線の課題から、人材育成・知的財産制度・社会との関わりまで、育種をめぐる多角的なテーマを掘り下げていきます。

開催日時:令和8年3月6日(金):12:00~13:30

開会のあいさつ; 江面 浩

日本学術会議連携会員/筑波大学生命環境系特任教授

話題提供1: ゲノム編集による「産業植物」の開発 —栄養繁殖作物ジャガイモと薬用植物カンゾウを例に—

村中 俊哉 氏

大阪大学 先導的学際研究機構 特任教授

話題提供2: ゲノム編集イネの開発最前線:モデルからフィールドへ —フィールド試験が示す新たな可能性—

小松 晃 氏

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 上級研究員

進行役: 門田 有希

日本学術会議連携会員/若手アカデミー幹事/岡山大学大学院環境生命自然科学研究科教授

お申込みは下記

<https://forms.gle/5xRDZwpJzFEAuK797>

お問い合わせ: 育種学分科会 担当 磯部 祥子

sisobe@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



The 11th Symposium on Theoretical and Applied Mechanics

Organizing

Committee on Mechanical Engineering, Committee on General Engineering, Committee on Civil Engineering and Architecture, Science Council of Japan Joint Subcommittee on Theoretical and Applied Mechanics

Co-organizing

Consortium for Theoretical and Applied Mechanics, Japan Society of Engineers

Date
13:00 – 16:30, 6th of March (Fri), 2026

 Free
of
charge

Venue
Auditorium, Science Council of Japan and Online

Classical mechanics is often regarded as a fundamental discipline established in each field of study, such as the so-called four dynamics in mechanical engineering (mechanics, mechanics of materials, fluid mechanics and thermodynamics). However, as the problems covered by mechanics become increasingly diverse, unsolved problems in mechanics across various disciplines are becoming apparent. In order to tackle these problems, it is necessary to fuse a wide range of disciplines beyond the framework of existing fundamental disciplines. Against the background of the above, this symposium, the eleventh of its kind, has been held to look at the latest trends in advanced research that could broaden the base of classical mechanics research, and at the same time to look at and discuss next-generation mechanics research that should be newly developed by researchers based on classical mechanics in collaboration with different disciplines. Last year, we planned a symposium with an emphasis on diversity and inclusion, with foreign researchers active in Japan playing a central role in selecting the symposium speakers, and all lectures being given in English. This year, following last year, we planned this symposium together with foreign researchers active in Japan, related to the theme selected for the International Union of Theoretical and Applied Mechanics (IUTAM) symposium.

Part 1 Chair: Timothée Mouterde (Lecturer, The University Tokyo)

13:00 Opening Remarks

13:10 **Invited Lecture (1)** 「The role of solid mechanics in solid-state ionic device research: an example」
Wakako Araki (Professor, Institute of Science Tokyo)

13:40 **Invited Lecture (2)** 「Curvami: an open-source software for curved origami」
Ettore Barbieri (Senior Researcher, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)

14:10 **Invited Lecture (3)** 「On the analytical solution of a coupled multiphysics model for ionic polymer-metal composite (IPMC) sensors」 On-line
Kentaro Takagi (Professor, Toyohashi University of Technology)

14:40 Break

Part 2 Chair: Ettore Barbieri (Senior Researcher, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)

14:50 **Invited Lecture (4)** 「Mechanical characteristics of gas-liquid two-phase flow in a venturi tube and its potential for societal applications」
Akiko Kaneko (Professor, Tsukuba University)

15:20 **Invited Lecture (5)** 「An electrifying farewell: how evaporating drops dance and explode」
Dan Daniel (Associate Professor, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST))

15:50 **Invited Lecture (6)** 「Control of capsule migration using pulsatile flow: a numerical analysis of a fluid-membrane interaction problem」
Naoki Takeishi (Associate Professor, Kyushu University)

16:20 Closing Remarks

16:30 Closing

Registration

If you wish to participate, please register in advance by

12:00 on March 4th (Wed) at the URL below or by using the code on the right. Pre-registration will be closed as soon as capacity is reached.

<https://forms.gle/xc4h8HPxETbKR1j9A>


Contact: Yoko Yamanishi (Professor, Kyushu Univ.) e-mail: yoko * mech.kyushu-u.ac.jp (Please change * to @ when you send it.)

主催 日本学術会議機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会
共催 公益社団法人日本工学会理論応用力学コンソーシアム



日時

令和8年3月6日(金) 13:00 - 16:30

場所

日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)ハイブリッド開催

参加料

無料

古典力学は、機械工学におけるいわゆる4力学(機械力学・材料力学・流体力学・熱力学)のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化に伴い、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これらの諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。本シンポジウムは今回が11回目となるが、上記を背景に、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論を重ねてきた。その中で、昨年度は日本で活躍する外国人研究者が中心となりシンポジウム講演者の選定を行い、すべての講演を英語で行うなど、ダイバーシティ&インクルージョンを重視したシンポジウムを企画した。本年度は、国際理論応用力学連合(IUTAM)のシンポジウムに採択されたテーマに関連し、昨年度に続き、日本で活躍する外国人研究者とともに本シンポジウムを企画した。

Part 1 司会: Timothée Mouterde(東京大学・講師)

13:00 開会の挨拶

13:10 招待講演(1)「The role of solid mechanics in solid-state ionic device research: an example」
荒木 稚子(東京科学大学・教授)

13:40 招待講演(2)「Curvami: an open-source software for curved origami」
Ettore Barbieri(国立大学開発法人海洋研究開発機構付加価値情報創成部門・主任)

14:10 招待講演(3)「On the analytical solution of a coupled multiphysics model for ionic polymer-metal composite (IPMC) sensors」 オンライン
高木 賢太郎(豊橋技術科学大学・教授)

14:40 休憩

Part 2 司会: Ettore Barbieri(国立大学開発法人海洋研究開発機構・主任)

14:50 招待講演(4)「Mechanical characteristics of gas-liquid two-phase flow in a venturi tube and its potential for societal applications」
金子 暁子(筑波大学・教授)

15:20 招待講演(5)「An electrifying farewell: how evaporating drops dance and explode」
Dan Daniel(沖縄科学技術大学院大学(OIST)・准教授)

15:50 招待講演(6)「Control of capsule migration using pulsatile flow: a numerical analysis of a fluid-membrane interaction problem」
武石 直樹(九州大学・准教授)

16:20 閉会の挨拶

16:30 閉会

参加申込み方法

参加を希望される方は、**3/4(水)12:00**までに下記URLまたは右のコードより
事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。
<https://forms.gle/xc4h8HPxETbKR1j9A>



連絡先: 山西陽子(九州大学) e-mail: yoko * mech.Kyushu-u.ac.jp (送信の際には * を @ に変えてください)

第5回 公開シンポジウム

不登校現象と今後の学校づくり

2026年

3月7日(土)

14:30~17:00

オンライン開催

(参加費無料)

定員:500名

文部科学省が令和7(2025)年10月に公表した「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、不登校児童生徒数が過去最多を記録したことが示されました。

子どもたちの十全な発達と学力を保障するという観点からは、教育機会確保法(平成28(2016)年制定)で示されたとおり、学校以外の居場所を確保するといった支援の充実も重要です。一方で、学校の在り方を問い直し、「学校」という概念そのものを捉え直すことも喫緊の課題と考えられます。

そこで本分科会では、不登校をめぐる様々な分野での研究成果を集約するとともに、学校の在り方を問い直すことで包摂性を高めているような事例を検討してきました。これらを踏まえつつ、今後、求められる「学校」の概念、並びに学校づくりの方向性を考究します。

本シンポジウムでは、本分科会で蓄積してきた議論の到達点を紹介するとともに、今後の学校づくりの在り方について提案し、参加者と議論を深めたいと思います。

お申込みは
こちらから

締切:3月4日(水)



司 会：勝野 正章(日本学術会議第一部会員／東京大学大学院教育学研究科教授)

三時 眞貴子(日本学術会議連携会員／広島大学大学院人間社会科学研究科准教授)

14:30 開会挨拶・趣旨説明

酒井 朗(日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授)

14:40 報告1 不登校現象と学校づくり分科会における議論の到達点

西岡加名恵(日本学術会議第一部会員／

京都大学大学院教育学研究科教授、教育実践コラボレーション・センター長)

15:05 報告2 子どもの多様性に応えることのできる公教育システムの再構築へ

——教育行政・学校経営・教職の在り方を問い直す

浜田 博文(日本学術会議連携会員／筑波大学人間系教授)

15:30 休憩

15:45 全体討論

西岡加名恵(日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授、教育実践コラボレーション・センター長)、吉田文(日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授)、上野正道*(上智大学総合人間科学部教育学科教授)、小方直幸*(香川大学教育学部教授)、唐木清志*(筑波大学人間系教授)、小玉重夫*(白梅学園大学・白梅学園短期大学学長／教授／東京大学客員教授)、酒井朗*(上智大学総合人間科学部教育学科教授)、中井昭夫*(武庫川女子大学教育総合研究所教授／大学院臨床教育学研究科専攻長)、浜田博文*(筑波大学人間系教授)、本田由紀*(東京大学大学院教育学研究科教授)、松下佳代*(京都大学大学院教育学研究科教授)、山田真紀*(椋山女学園大学教育学部子ども発達学科教授)、山名淳*(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)、油布佐和子*(早稲田大学名誉教授)、伊藤美奈子(日本学術会議連携会員(特任)／神戸女子大学心理学部教授／奈良女子大学名誉教授)

※但し、氏名に*が付してある討論者は、日本学術会議連携会員です。

16:50 総括・閉会挨拶

山名 淳(日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)

17:00 閉会

お問合せ:京都大学大学院教育学研究科

教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

第2回「海洋生物と気候変動：解決と適応」

開催情報

日時：令和8年3月8日（日）
13:00~16:00
方法：オンラインのみ

主催・共催・後援

主催：基礎生物学委員会・統合生物学委員会
合同海洋生物学分科会

共催：地球惑星科学委員会、食料科学委員会
水産学分科会、自然史・古生物分科会

後援：生物科学学会連合、日本地球惑星科学
連合、環境省、文科省

趣旨

身近な生物を題材にした
「海洋生物と気候変動：現状と課題」・
「海洋生物と気候変動：解決と適応」・
「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」
の3回に分けて、一般市民向けのシリーズ
公開シンポジウムを開催します。

第2回「解決と適応」では、気候変動が進行
する中で、海洋生態系の再生や適応策を多角
的に検討する。特に、ブルーカーボンを含む
藻場再生や海洋酸性化への対応策、漁業と生
態系サービスの関係について議論します。地
域の取り組みや企業の技術的解決策を紹介し、
持続可能な海洋利用を促進する方法を探りま
す。

次第

13:00-13:10 開会挨拶・開催趣旨説明（10分）

日本学術会議連携会員・海洋生物学分科会委員長（原田 尚美）

13:10-14:40 基調講演（90分）

伊藤 慶子（株WMI代表）「海洋再生プロジェクトと漁業コミュニティ
の連携」

高倉 葉太（株イノカ代表）「海から拓く、日本経済の未来」

渡辺 謙太（海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所）「ブ
ルーカーボン貯留と大気CO2除去の統合的理解（仮）」

14:40-14:50 休憩（10分）

14:50-15:40 パネルディスカッション（50分）

テーマ：「持続可能な海洋利用のための適応策」

パネリスト：基調講演者＋モデレータ（堀 正和 水産研究・教育機構）

15:40-16:00 質疑応答（20分）

16:00 閉会挨拶 日本学術会議副会長（三枝 信子）

参加申し込み方法

<https://forms.gle/2yfnh4foEeF4XwyR6>

問い合わせ先:

原田 尚美 naomi.harada@aori.u-tokyo.ac.jp

安田 仁奈 27Yasuda@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



研究倫理・調査倫理の

2026年3月8日(日)13:00~16:30

社会学系コンソーシアム2025年度シンポジウム

報告者

田代志門(東北大学大学院文学研究科教授)

丸山里美(京都大学大学院文学研究科教授)

笹原和俊(東京科学大学環境・社会理工学院教授)

討論者

武藤香織(東京大学医科学研究所教授)

三輪哲(立教大学社会学部教授)

司会者

数土直紀(一橋大学大学院社会学研究科教授)



参加登録(オンライン)↑



子どもの権利から見た

あるべき教員養成カリキュラム

改正とは

2026年

3月8日 (日) 13:00~17:00

日本が国際連合の「子どもの権利条約」を批准して30年以上たちました。2022年に制定された「こども基本法」にも子どもの権利が謳われています。しかし、現行の教員養成カリキュラムの中に、子どもの権利についての言及はありません。すべての教員が子どもの権利を正しく理解し、学校現場にてそれを体現するためにはどうすればよいのでしょうか。

本シンポジウムでは、現行規定の課題を論じた上で、教員養成における子どもの権利に関する教育実践を紹介し、教員養成カリキュラム改正のあるべき方向を考えます。教員、研究者、メディアなどたくさんの方のご参加をお待ちしております。

趣旨説明 阿部彩 (東京都立大学 ※1)**司会** 西希代子 (慶應義塾大学 ※2)

第一部 (13:10~14:10)

教員養成カリキュラムにおける
「子どもの権利」教育

第二部 (14:25~15:20)

教員養成カリキュラムにおける
子どもの権利教育の実践

教員養成カリキュラムの現状と展望

勝野正章 (東京大学 ※1)

「子どもの権利」を学ぶ「『生きる』教育」

西岡加名恵 (京都大学 ※1)

予防的生徒指導と子どもの貧困

山野則子 (大阪公立大学 ※2)

教職入門における権利を学ぶグループワーク

宇野由紀子 (愛知大学)

特別活動論における意見表明・参加の権利への
アプローチ

大日方真史 (三重大学)

4年間を通した子どもの権利学習の試み

安部芳絵 (工学院大学 ※3)

ラウンド・テーブル・ディスカッション (15:20~16:30)

申込はこちら ▼

締切：3月7日(土)

ZOOM申込 ▶

https://us06web.zoom.us/join/register/S1_okHRURRyHwUp_uK7Gf3A#/registration

対面申込 ▶

<https://forms.gle/wscwzpm1bydtZF2h9>**会場**全国教育文化会館エデュカス東京 大会議室
(東京都千代田区二番町12-1)※オンライン参加の方は必ず期限までにお申込みください。
※会場参加の方は当日参加も可能です。
※Webサイトからも申込可能です。

※1：日本学術会議第一部会員、※2：日本学術会議連携会員、※3：日本学術会議連携会員 (特任)

主催：日本学術会議社会科学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・法学委員会・経済学委員会合同子どもの権利保障分科会

共催：文部科学省科学研究費 学術変革領域 (A)「貧困学の確立」(JSPS科研費22H05097 研究代表者：阿部彩)

問い合わせ：事務局 (東京都立大学子ども・若者貧困研究センター 阿部)

Webサイト：<https://poverty-research.jp/260308/>

abeken@tmu.ac.jp (042-677-2126)

東日本大震災の

「記憶」を振り返る

本シンポジウムは、東日本大震災から15年が経過しようとする現在において、社会がいかに「記憶」を継承し、その意味を再構築していくのかを多角的に検討することを目的とする。災禍をめぐる「語り」は、単なる過去の出来事ではなく、語りの実践やメディア、教育、地域コミュニティなどの具体的な場を通していまなお形作られている。

本シンポジウムでは、被災地の語りの変遷、記録と風化の問題、世代間継承の課題、そして国レベルの科学政策・防災政策との接点などを議論する。災禍の「記憶」を固定化されたものとしてではなく、社会とともに変容する動的なプロセスとして捉え、未来の備えや共生のあり方を考える契機としたい。

3 / 9 (月)

2026年

13:00～17:20

(12:30開場)

会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

参加費

無料

こちらよりお申し込みください。



<https://forms.gle/oHascBXFZ5LwcwxG7>

対象

どなたでもご聴講いただけます。

— プログラム —

13:00 開会挨拶 豊橋技術科学大学 小野 悠
13:05 趣旨説明 関西大学 杉本 舞

講演

13:10～13:40 災禍をめぐる「語り」をみんなで形作るということ
— 3がつ11にちをわすれないためにセンターの実践
せんたいメディアテーク 甲斐 賢治
13:40～14:10 変態する「震災遺構」 岩手大学 坂口 奈央
14:10～14:40 復興の〈周縁〉から
— 「語りにくさ」を超え、にじみ出てきたもの
東北学院大学 山崎 真帆

14:40～15:00 休憩

パネルディスカッション ファシリテーター 慶應義塾大学 標葉 隆馬

15:00～16:00 パネル登壇者話題提供
東日本大震災の教訓と伝承? 東京大学 関谷 直也
災害の記憶と語りの倫理 京都大学 児玉 聡
災禍を超えて史料と歴史を残す意味 東北大学 佐藤 大介
被災者の生活とウェルビーイング 青山学院大学 菅野 早紀

16:00～16:10 小休憩

16:10～17:10 パネル討論

17:10 閉会挨拶 大阪大学 中村 征樹

総司会 岡山大学 門田 有希

日本学術会議公開シンポジウム

政治の歴史をどう語るか

——陰謀論の時代の中で

2026年3月9日月 14:00-16:30
オンライン開催

参加費
無料

ソーシャル・メディア上での言論では、しばしば歴史的な知識や主張が自身の政治的な主張を正当化するために使われる。その際の歴史の論じ方は、必ずしも学問的な歴史の論じ方と一致しているわけではない。だが、民主制下で選挙が適切に実施されるためには、皆が結論を共有できないまでも、少なくとも歴史の語り方を共有できることが望ましい。

本シンポジウムでは、近年の選挙やネット言論での陰謀論の流布を視野に入れつつ、「語り方」や「語りの場」に注目しながら、私たちが歴史を共有し未来に活かしていく方法を探っていく。

プログラム

14:00 司会・趣旨説明

森山 花鈴 (日本学術会議連携会員／南山大学社会倫理研究所第一種研究員・総合政策学部総合政策学科准教授)

14:15 報告①「ソ連／ロシアにおける内戦の記憶と社会」

立石 洋子 (同志社大学グローバル地域文化学部准教授)

14:45 報告②「宮中・皇室は共産主義をどのように認識したのか」

中澤 俊輔 (日本学術会議連携会員／秋田大学教育文化学部准教授)

15:20 コメント①

石田 雅樹 (宮城教育大学教育学部教授)

15:40 コメント②

早川 誠 (日本学術会議第一部会員／立正大学法学部教授)

16:00 ディスカッションおよび質疑応答

問い合わせ先: 立正大学法学部事務室 law@ris.ac.jp

主催: 日本学術会議政治学委員会政治の歴史と主権者教育分科会

共催: 立正大学法学部、立正大学法制研究所

参加申し込みはこちらから

<https://forms.office.com/r/H48PAD35zk>

申込期間: 3月2日(月) 18時まで



※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。